

牛群検定通信No78

～泌乳持続性の遺伝評価値の表示が変更となります～

今月の検定成績表から、泌乳持続性の遺伝評価値の表示が変更となります。変更点を紹介するとともに、泌乳持続性の重要性を再確認してみましょう。

1 変更の内容

泌乳持続性は、これまで「100」を基準とした97～103の7段階で表示していました。これを「0.00」を基準として、以下の対応表のとおり、プラスとマイナスで表示するように改めます。

従来		新しい泌乳持続性
103	=	+3.00～+9.99
102	=	+2.00～+2.99
101	=	+1.00～+1.99
100	=	-0.99～+0.99
99	=	-1.99～-1.00
98	=	-2.99～-2.00
97	=	-9.99～-3.00

2 検定成績表での変更

検定成績表および裏面の次世代診断で変更となるのは次のとおりです。

(1) 検定成績表における未經産牛の遺伝表示

血統登録をもつ未經産牛を検定加入している場合は、検定成績表にPAという遺伝評価値が表示されます。その中の泌乳持続性(LP)が前述のとおりの変更となります。

(2) 裏面の次世代診断

・授精結果の次世代診断（13カ月推移）

今ご覧になっていただけるこのページの下部に表示されている13カ月推移の泌乳持続性に変更となります。今月からの変更なので、過去データとの比較など行いづらいかも知れませんが、前述の対応表によりご利用下さい。

・次世代診断情報（授精結果診断）

産子に期待される推定育種価(PA)の各個体別と、国内海外などの平均情報

その他の検定牛ごとの遺伝評価については、別途配付している牛群改良情報で確認してください。

3 より詳細な活用

今回の表示変更により、泌乳持続性の遺伝評価を7段階でしか見ることが出来ませんでした。より詳細に確認できるようになります。泌乳持続性の改良は、高泌乳で飼いやすい牛群を作出します。

(1) 泌乳が安定的に継続することから、エネルギーバランスが安定します。

(2) ボディコンディションが安定し、飼料効率が高まります。

(3) 難産回避などの分娩事故や、繁殖性を改善します。

(4) 周産期病の低減を期待できます。

泌乳持続性は、いろいろな相乗効果から長命性を期待できる遺伝評価です。